

2009年
6月29日
第282号



JR東海 労

〒143-0023 東京都大田区山王4-21-5
山王ハイツ101
Tel. NTT 03-5743-2562 FAX 2570
J R 058-4502 (FAX兼)
Eメール jrroukairou@yahoo.co.jp

J R 東海 労働組合
発行人 鈴木富雄
編集人 加藤光典

http://www.geocities.jp/jrtoukairou/

不当弾圧粉碎！ 展望なきリニア反対！ 強権的な労務管理に抗し、 全組合員で組織拡大を実現しよう



第24回定期大会

休む間もなく闘い続けた1年だった。闘いは、現状を良くするために労働者にとつての宿命である。



本部 鈴木委員長

本部は、6月21、22日、熱海市において第24回定期大会を開催しました。大会には、160名を超える組合員、ご来賓が参加し、24名の代議員から、昨1年間の自信に満ちた闘いの教訓が報告され、本部が提起した方向一年間の闘う方針を熱く議論しました。

広域異動で国鉄改革を担った深川さんが、一退

職し明日北海道に帰る、東海労でよかった」と言ってくれた。私は「ご苦労をおかけしました」と言った。深川さんは北海道の地から未来を創るために東京に来たのだ。深川さんの思いに立って、私はあらためて頑張らな

加藤誠二さんと美世志会の解雇撤回、早期職場復帰を勝ち取る闘いを進めてきた。7週連続ビラ配布、現場長への申し入れ、署名行動、さらには非協力・抵抗闘争を職場や地域からやり抜いてきた。事件の解決は裁判が軸ではあるが、その過程で組織の強化を勝ち取る事が大事だ。

た。浜松では冤罪袴田事件の再審を求めて闘う取り組みが紹介された。拷問で自白が強要された。無罪の証拠もたくさんある。しかし死刑判決である。林さんも自白も証拠もないのに死刑判決である。警察権力は真犯人を捜挙できないときは、犯人を作ってしまうのだ。このような国家犯罪を絶対に許さない。デッチ上げ横領事件での国家賠償請求訴訟で、6月9日の判決で1部勝訴を勝ち取ったが、気を緩めず正義の闘いを推し進める。

民事裁判、刑事裁判共に不当判決が出された。判決の中身は推認だらけで証拠は一つもない。「有罪ありき」という結論があつて、それに結びつけてための公判や裁判であつた。絶対に許されない。美世志会は不当逮捕から7年である。事件の狙いは加藤さんや美世志会ではなく、JR総連、松崎さん、佐藤さん、JR東

職場から新たな労務管理に抗して闘い、大きな成果を勝ち取った。しかし、全世界的な金融危機は資本主義の崩壊へと突き進み、危機のしわ寄せを全て労働者へ押し付けている。正しいことが通らない異常な社会だ。厳しい状況であるが、私たちは闘い続け、さらに成果を勝ち取っていかう。世界の紛争、戦争は絶えない。北朝鮮を利用して日本も軍事強化に突き進んでいる。不況のときこそ戦争に突き進むという権力者のやり方だ。憲法9条を、平和をしっかりと守ろう。

裏面に続く

組織強化をしていく。F21に対する新たな弾圧を絶対に許さない。

②傲慢かつ無責任なりニア建設構想に反対する。リニア建設構想は間違いだらけだ。まして、

事前に労働組合への何の説明もない。現在まだ3兆1700億の借金があるし、社債も6千億を突破している。5兆1千億を自前で用意して建設するというが、開業時に責任者は誰もいない。現在乗客が減っているし、横浜や静岡を通らずに、いったいどこから人が乗るのか。技術的にも、土地買収の展望も全くない。さらにはリニアを通じた労働者への締め付けは必死である。反面、役員は平均で5千万円の報酬である。このような者たちの姿勢が問われているのだ。会社を倒産させるわけにはいかない。

③名松線事故の会社対応に記者たちは「経営者は社会に鈍感だ!」と言っている。傲慢な営利優先、安全軽視を許さず、安全を確立しよう。

④異常な労務管理に不満が満ち溢れている。あたりまえの労働運動を行う組織の強化、拡大のために、躊躇することなく加入届けを差し出そう。加藤さんと連帯する立場に立って、己のうちなる日和見と対決して、1歩2歩前に出よう。

(要旨)



JR総連 武井委員長

二件の不当な判決に怒りをもって完全無罪に向けた闘いを前進させる。取り巻く状況下で、非正規者の解雇、派遣切りが横行している。労働者が切られているのに、抗する闘いが無い。労働運動がない。労働組合が連合や交運労協は運動をどう組織しようとしているのか、その動きが全く見えない。厳しい労働者の現実が分かっているのかと言いたい。まさに悲惨な状況である。

こういふ労働運動の状況、現実の中で二つの判決は出された。無実なのに、労働者のために闘う組織を破壊するための有罪ありきの判決であった。古田助役の自信に満ちた証言は、信頼性が無いなどと、裁判長がまるでフィクション作家にでもなったかのように犯罪を作り上げた。司法はここまで腐ったのか。このように司法の蛮行を許さず、控訴審の勝利に向かって闘おう。

浦和電車区事件においては、裁判官は美世志会の真実の訴えに聞く耳も持たない。真実を解明する裁判所はその機能を放棄した。私たちは、真実

と民主主義を守り、裁判に勝つためにあらゆる手段を尽くしていく。最高裁に、憲法違反の判決を認めるのかと突きつけていく。闘争心を燃やし、勝利に向けて闘う。

足利事件の菅谷さんは、栃木県警の謝罪を認めるといつて言っていた。優しい人だ。無実で17年も拘留されて、本当に許せるものなのだろうか。間違いを教訓にしない警察、権力の意に沿う腐った司法を許さず闘っていく。

国賠の裁判がある。なかなかこちらの主張が認められない。しかし、そもそも、被害者のいない事件などありうるのか。異常以外の何ものでもない。異常な社会、政治を変えろ。そのために政権交代をさせていこう。しかし、すべてを民主党におもむくのではなく、是は是、非は非としてやっていく。

JR総連の大会で、労働者のための政権でなければ新しい党を作ると言った人がいた。困難の中に志を持って貫徹する。小沢さんの秘書が権力に弾圧された。権力の暴走がなければ小沢さんが首相になつていた。これを許さないための弾圧であつた。三権分立というが、司法が政治と全く区別されていない。堂々と腹を据えて闘おう。

(要旨)



美世志会 梁次代表

5月19日に勝つて、6月5日に勝つて、そして6月21日の民事で勝つて6月30日の定年を迎えるという梁次スケジュールがあつた。しかし、ことごとく負けた。突然の逮捕、起訴、一つひとつ悔しさがこみ上げてくる。しかし、その悔しさの一つひとつが闘いのバネになっている。私たちは無実だ。悔しさを組織の拡大、強化に変えて前に進む。

全組合員参加の労働組合活動が否定された。事実、真実をコロコロ変え控訴審判決を出した。全くのデータラメだ。上告審で、裁判所よ!そこまでやるのか!と訴える。無実で死刑が執行されるデータラメな判決がたくさんある。無実の叫びを聞かない司法は改革しなければならぬ。

判決では負けたが、運動的、組織的に決して負けていない。権力の予定ではJR総連、JR東労組は既につぶれている。しかし、組織を強化し、運動は拡がっている。社会悪との闘いに勝つていく。組織の強化拡大をさらに進めていく。

(要旨)



JR総連議員団 楠副団長・関ヶ原町議

蒲郡駅事件と浦和電車区事件の完全無罪と早期職場復帰、政策実現に努力していく。

改憲、防衛大綱など北朝鮮問題を理由に軍事強化が行われている。改憲のための投票法発動や、司法の反動判決という現実、それらを監視する労働運動の弱さ、革新たる政党の弱さにその責任がある。しっかりと反省し、勝利の闘いを通じてあたりまえの労働運動、革新運動の再構築をしていきたい。

(要旨)



加藤誠二君を支援する 浜松の会 古屋さん

処分はないのか。とても疑問である。6月12日の集会後に袴田事件再審に向けての署名活動を行っている。冤罪が社会的に注目されている。国家権力の弾圧に対して、加藤誠二さん、美世志会を現場に戻すために闘っていく。

弾圧に抗して運動をどう拡げるのかが問われている。100名を超す会員が傍聴、ビラ配布などに参加してきた。現職を退いてもなお運動に協力するような組織は他には見られない。着実に運動を進めていく。自殺が3万人を超えてから10年になる。まさに異常な社会である。現実を突破する。そのためには労働運動の強化しかない。

加藤誠二さんへの狙いは、加藤誠二さんが現実を突破しようとする人だから狙われ叩かれた。歴史にも立ち上がった人を暴徒としてくくって弾圧されている。権力の横暴を許さず闘っていく。

(要旨)



OB会 鈴木会長

OB会は現職と一致して闘う。つくられた蒲郡駅事件、浦和電車区事件で傍聴券やビラ配布の取り組みに多く参加してきた。裁判を傍聴して、何ひとつ犯人とされる証拠がないことから、作られた事件であることがはっきりした。JR総連、東海労働組合とする葛西会長が組んだこの事件を許さず、完全無罪、早期職場復帰に向けて共に闘っていく。

リニアのことが中日新聞に出ているが、解決すべきことがまだたくさんある。勝手に一人走りしているに過ぎない。責任を働く者に強いるリニア建設構想に反対である。社会を変えるために衆議院選挙の勝利を共に勝ち取る。

(要旨)



来賓

弁護士 渡辺弁護士



判決が不当であることは全員の認識が一致するところである。どこが不当なのかということをはつきりとさせて、不当判決をひっくり返す武器としていく。

刑事裁判が有罪だということとは、窃盗したと認定したことになる。民事での棄却は、解雇が適法だということだ。なぜ認定できたのか。

盗み出した証拠がないし、直接証明する証拠がない。推認とか蓋然性とか言っているが、防犯カメラの一部が映っていることで推認ができるのか。とにかく推認を重ねていったら過ぎない。

助役は書庫に鍵をかけていたと言っている、これには全く触れない。まさにゴマカシだ。指紋も証拠価値には乏しいのだろう。推認だって合理的でなければならぬのだ。

国家権力がJR総連を破壊するために、どうすれば破壊できるのかという意志が現れている。裁判官の形式的な思考を控訴審でひっくり返していく。

(要旨)

JR総連 加藤共闘部長



本質的には攻撃を粉砕したと言える。

自分自身、攻撃自体がとてつもないものだった。相手を見られるようになった。相手の主張をしっかりと論破してきた。なぜ推認できるのかをこだわって考えていきたい。

反弾圧の闘いはみんなに支えられてきている。組合員一人ひとりの怒りを具体的にどう闘いに結び付けていくのか問われる。

職場で平和共存ではない。JR連合を粉砕するために組織拡大を具体的に進める。闘いは続く。東海労にいう意義は、職場から闘う組織を残すということである。

(要旨)



発言された 24名の代議員



質疑は24名の代議員から発言がされました。骨子は以下の通りです。

- ・反弾圧の闘い、加藤誠二さん、美世志会の完全無罪、早期職場復帰を勝ち取る闘いについて
- ・リニア構想反対の闘いについて
- ・車両所の再編、分会結成について
- ・地本常駐体制について
- ・控訴審勝利集会について
- ・会社の不当介入について
- ・組織の強化拡大について
- ・安全問題について
- ・従業員の資質について
- ・支援連帯の闘いについて
- ・不当配転反対の闘いについて
- ・新型インフルエンザに関する取り組み
- ・再教育反対の取り組み
- ・ピラ配布について
- ・異常添乗について
- ・職場諸要求について
- ・平和問題について
- ・鉄道愛好会について
- ・職場内職集について



各部からの答弁の後、JR総連 政策部長の感想と小林書記長から総括答弁がなされました。JR総連 政策部長



不当判決を許さない。職場を基礎に反撃の拠点をつくる。命令と服従を許さず、闘う方針を組合員と一致させ、他労組合員にも波及し、地域にも拡大して闘おう。

リニアに対しては、しっかりとした具体的な方針を確立して闘おう。実用技術がまだ完全でないし、そもそも5兆1千億で収まるはずがない。しっかりと共に闘っていく。

(要旨)

総括答弁 小林書記長



より具体的に取り組みの方向性をはつきりした。闘いの基調は3本柱である。①反弾圧の闘いは、4、21、5、19、6、5の不当判決に対して、怒りをもって弾劾する。職場から解雇撤回、早期職場復帰を一人ひとりが闘い勝ち取っていく。②傲慢経営によってその展

望が全く見えないリニアに反対し闘う。③結成20年を目前にして、新たな仲間を迎えて第20回記念大会を成功させよう。

7月13日、9月7日、9月27日を大きな節目として反弾圧の闘いを取り組む。9月7日の控訴審を、職場から闘いを積み重ねて、多くの仲間で名古屋地裁に結集し、地裁を取り囲もう。

リニアが建設される地元でリニア反対の集会が開かれる。その集会へ参加の呼び掛けがきている。連帯の闘いを追求し、反対の戦線を大きくしていく。リニアが働く者に重たくのしかかってくることはあきらかである。葛西会長の野望でしかないリニア建設にNOを突きつけ、この闘いを通じてJR総連包囲網を打ち砕き、加藤誠二さん、美世志会の完全無罪、早期職場復帰を勝ち取る。

休日出勤が車両所にも拡大されてきた。職場の諸課題を具体的に要求にして、運動を広範に展開し、しっかりと組織拡大を具体的に取組もう。

職場でJR東海ユニオン役員に問題を突きつけ、議論を吹っかけていく。得手不得手はあるが、総合的な力を発揮して組織拡大を実現しよう。

全ての闘いの成果を加藤誠二さんの職場復帰につなげていく。 (要旨)

大会アラカルト

参加者で組合歌を合唱



活動記録の展示



会場設営する中執



横断幕の贈呈



横断幕への記名



貼り出された横断幕



執行部



健康食品販売

- 大会に参加されたご来賓の皆様
- J R 総連
 - 武井委員長
 - 萩原副委員長
 - 湊上政策部長
 - 湯谷広報部長
 - 加藤共闘部長
 - 京力特別執行委員
 - 舟山特別執行委員
 - 弁護団
 - 渡辺弁護士
 - 鉄道ファミリー
 - 二宮代表取締役社長
 - 石川取締役営業部長
 - 杉田様
 - 美世志会
 - 梁次代表
 - J R 総連議員団
 - 楠副団長・関ヶ原町議
 - J R 東海労OB会
 - 鈴木会長
 - 加藤誠二君を支援する浜松の会
 - 古屋様
 - 加藤誠二君と共に闘う名古屋の会
 - 戸田様



二宮代表取締役社長



鈴木委員長による乾杯の音頭

懇親会



石川取締役営業部長

